

■ 早稲田大学地域社会と危機管理研究所、能登半島地震・豪雨被災地 巡検

1. 目的 能登半島地震における下出区の避難行動に関する意見交換
2. 日時 2024年11月24日（日）9：00～10：00
3. 進行
 - (1) 能登町宿舎 →下出集会場 →ようもん坂などを視察 →集会場で意見交換
 - (2) 出村区長の挨拶
 - (3) 調査結果の要点（吉川） →状況に応じて柔軟に
 - (4) 住民による経験談（案）
 - 1) 能登半島地震後の避難行動
 - 2) 東日本大震災後の避難対策
 - 3) 「迅速な全員避難」ができた要因
 - (5) 質疑応答

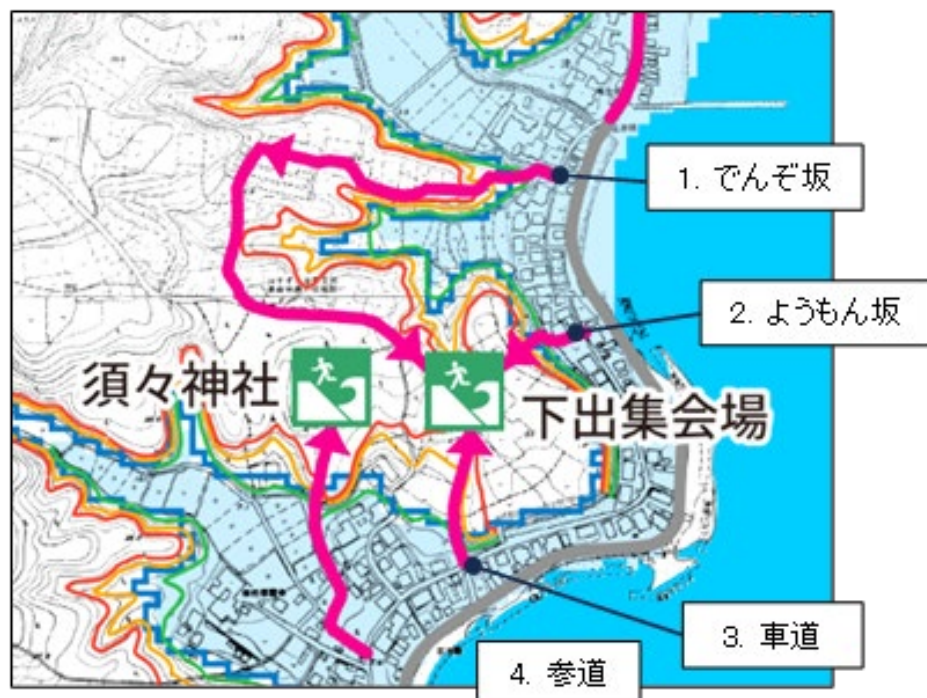


図1 下出区の避難場所と避難経路、浸水想定範囲

□下出区避難訓練検討会 配布資料

1. 目的 下出区における津波避難訓練の企画検討
2. 日時 2024年11月24日（日）10：30～12：00
3. 進行
 - (1) 出村区長の挨拶
 - (2) 調査結果の要点：避難訓練への知見（吉川）
 - (3) 意見交換
 - 1) 避難訓練の企画について
 - 2) 避難訓練の準備について
 - (4) まとめ
4. 調査結果の要点と避難訓練に関わる論点
 - (1) 避難方法の事前確認（避難場所・移動手段・経路など）：あり→避難開始が早い
 - (2) 避難訓練への参加：あり→避難開始が早い
 - (3) 居場所の危険認知：大きい→避難開始が早い（避難しない）
 - (4) 地震の大きさ：大きい→避難開始が早い
 - (5) 大津波警報の発令：あり→避難開始が早い
 - (6) 家族の集合状況：集合→避難開始が早い（要支援家族の車による搬送も含む）
 - (7) 家族に要支援者の存在：あり→避難開始が早い

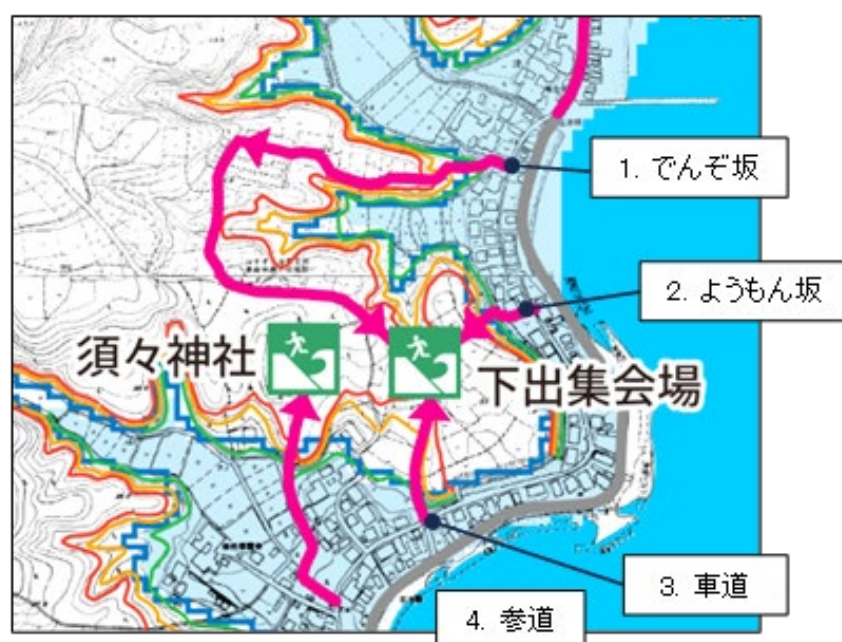


図1 下出区の避難場所と避難経路、浸水想定範囲

5. 避難訓練・ルール・計画への反映方法

- ☐ 4. の(1)(2)(3)：災害前の条件は、6. で避難促進側に設定
- ☐ (4)(5)(6)：災害後の条件は、6. で避難抑制側に設定
- ☐ (7)：「要支援者の存在」も避難抑制側に設定 →今回は搬送してくれる家族がいたが、もしいなかったら？ →「要支援者の避難支援計画」を考えておく
- 「要支援者の避難支援計画」：誰が、誰を、どこに、どの搬送手段で、どの経路を搬送するかを検討しておく(表1・図1を参照)。

表1 下出区にお住いの人数・世帯数など

	休日夜間	平日昼間
現在下出区にお住まいの 人数・世帯数	人・世帯	人・世帯
要支援者の人数・世帯数	人・世帯	人・世帯
支援者の人数・世帯数	人・世帯	人・世帯

6. 避難訓練企画への反映

(1) 開催時期： 年 月 日

(2) 前提条件の設定

- 地震の規模：震源 、震度
- 発生時期・気象： 平日・休日、 月 日、暑さ・寒さ、雨天など
- 発災時の居場所：
- 避難先： 下出集会場 ・ 出荷場？ ・ その他（ ）
- 家族の集合状況：

(3) 訓練シナリオ（いつ、誰が、何をするか）

- 〈訓練前〉家族で「避難方法」を確認(避難場所・移動手段・経路など)【啓発】
- 時 分、地震発生、緊急地震速報の発表
- 時 分、津波〇〇報の発表
- 時 分、
- 時 分、
- 時 分、
- 時 分、

7. 避難訓練の準備について（広報、資料作成など）

8. まとめ

- 会議のまとめと今後の予定